

皆さん、おはようございます。一年間の締めくくりの日を迎えました。振り返ってみれば今年はコロナ禍で未曾有の出来事が頻発した年でした。二年生はオーストラリアへの研修旅行が中止になり、久米島への変更を余儀なくされました。一年生は入学が遅くなり、タブレットの配付さえ、ままならない状態で学校生活が始まりました。そんな状態であるにもかかわらず、皆さんは今できることを精一杯やってくれました。さぞ、大変な思いをしたことでしょう。さて、私事です。が、2月に心筋梗塞を発症し、救急搬送され、緊急で手術を行いました。3本の冠動脈のうち、1本が詰まったのです。そのまま放置していれば週末には死んでいたと、医師から告げられました。2年生の現代文で習う「山月記」の中で虎になった李徴は「全く、どんな事でも起り得るのだ」と自嘲していました。まさに人生は何事も起こりうるということを実感しました。この出来事

以降、私が目にする景色は一変しました。白いモクレンを見ると、あの時死んでいけば、眼前に咲くこのモクレンをみる事ができなかつたと思うようになり、皆さんの姿を見ると、この姿をみる事も出来なかつたと思うようになったのです。

発症した2月12日以降に起こったことを知ることとはできなかつたといつも思うようになりました。我々は一瞬一瞬を生きています。その一瞬一瞬を二度と帰らぬものとして楽しむのだ、充実させるのだと今は感じています。さて、2年生の皆さんはまもなく勝負の年を迎えます。今年の3年生もコロナ禍に負けず、昨年以上の進学実績を残してくれました。まさに千里高校は右肩上がりの状態です。世界は皆さんのような、人の心がわかる、若々しい英気を必要としています。努力し、今を充実させて自分の希望の進路をつかみ取ってください。では最後に私の好きな4字熟語を皆さんに送ります。分厚い雲のかな

たには青空が待っています。「雲外蒼天」